

古里の風薫る同郷の輪

首都圏などに住む八幡平市出身者で構成する「八幡平ふるさと会」は6月3日、初めての総会を東京の浅草ビューホテルで行いました。

八幡平ふるさと会は、旧町村ごとの出身者で活動していた西根ふるさと会、ふるさと松尾会、東京安代会の3団体を4月1日に統合し設立。設立後初めての記念総会を迎えました。

総会には工藤修会長のほか会員245人が出席。市から田村正彦市長、瀬川健則市議会議長など8人がお



工藤 修 会長

祝いに駆け付けました。特別ゲストに、婚約したばかりの栃乃花関が招かれ、新生・八幡平ふるさと会の結成に花を添えました。

工藤会長は「八幡平ふるさと会を通して、市出身者相互の親ほくと、故郷との交流を深めるために、活動を行いたい」とあいさつ。鏡割りで新たなスタートを祝いました。アトラクションでは、西根地区の大石平念仏剣舞を披露。出席者は、久しぶりに見る郷土の舞に心を躍らせ、思い出話に花を咲かせました。

会場では、市の特産品が当たる抽選会を開催。市の物産を販売するコーナーも設けられ、会員たちは物産の説明を聞きながら方言を懐かしみ、ふるさとへ思いを寄せました。



↑鏡割りで、八幡平ふるさと会の設立を祝いました



↑大石平念仏剣舞が披露されました



ふるさとを懐かしみながら、名誉市民・故江間章子さんが作詞した「ふるさと」を大合唱